

レオタードをずらして挿入すると、杏奈ちゃんは蕩けた表情を浮かべた。

「あ、青木さんのお…すごお♡おほお…♡」

杏奈ちゃんがうっとりとした声で俺の名を呼ぶ。俺はその声に興奮し、下からピストンを始めた。

「あっ♡激しい♡だめえ…♡」

杏奈ちゃんはビクビク震えながら俺にしがみつく。

「わ、私が教えるんですから！青木さんはただ運動に集中していればいいんです！」

「はい！わかりました！」

「ほ、ほんとですか？わかってます？」

「大丈夫です！杏奈ちゃんのナカ気持ち良すぎて…」

「ナカじゃなくておマンコです！お・マ・ン・コ！」

「お、おマンコ気持ち良いです！」

「はい！よく言えまし…ひゃうん♡」

杏奈ちゃんは顔を真っ赤にして、甘い声を上げた。

「ちよっと！おちんちん動かさな…あん♡」

下から突き上げると杏奈ちゃんが可愛い声で鳴いた。